雲晴

新年号

「雲晴」第二十一号
平成二十九年一月一日発行

貞林院瑞正寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五―四六―五
電話（〇三）三六二七―三四一一
FAX（〇三）五六九九―五九一五

謹んで新春のお慶びを申し上げます

昨年は〝琴バウアー〟で盛り上がった琴奨菊の正月場所優勝に始まり、イチローの新記録達成、リオ五輪での感動など賑った年であり、広島訪問時のオバマ大統領による演説では、我々自身も命の重み、平和について、熟考する良い機会でありました。一方、日本でも世界でも命の重みを顧みない悲しい事件が起こってしまいました。また、日銀のマイナス金利や都知事選、米大統領選など、あらゆる分野で激動の年であったように思います。熊本地震、大型台風、鳥取地震など、天災による甚大被害も発生しました。書いているだけで目が回ってしまいそうな慌ただしい一年に、心が乱れてしまった方もいらっしゃるのではないかと思います。

さて新たな一年が始まります。平成二十九年の干支は「丁酉（ひのととり）」、ニワトリをあらわす酉年です。ニワトリは朝方一番に鳴く鳥のため縁起が良いとされ、「とりこむ」として積極的、親切で世話好きという意味があります。

雨にもまけず　風にもまけず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだをもち
慾はなく　決して怒らず
いつも静かに笑っている（略）
東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行って怖がらなくてもいいといい
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめろといい（略）
そういうものに私はなりたい

右は宮沢賢治の有名な詩ですが、雨などにも負けず、すべての人に対し良い人でいようとする姿は、様々な迫害にもめげずに菩薩行を実践していこうとする仏教徒としての気概が感じられます。「随喜他善」という言葉に現れる人の善事に歓喜する心とともに、この詩の寄り添いの共生き思想を大事にしたいと思います。本年も多くの出来事があることでしょう。この世の生きとし生けるものはあらゆる命との縁、関連性をもって生かされていることを認識し、感謝し、心乱れることなく、すべての人にとって万人和楽の一年となることを祈念しています。

「次世代に伝える大切なこと」

貞林院瑞正寺住職　林　清方

私の寺では毎年秋に「海軍飛行予備学生第十四期戦没・物故同期生慰霊法要」を行っています。先代も同じ十四期生だったので、そのご縁で続けており、同期生並びにご遺族などがご参列下さいます。昭和十八年十月二十一日に出陣学徒壮行会が雨のなか明治神宮外苑球場で行われ、学業なかばで学生たちはそれぞれ戦地に赴きました。

この年代は大正生まれで現在既に九十歳を超える年代となっています。

作家の門田隆将氏は「大正生まれのうち二百万人が戦死しており、実に同世代の七人に一人が戦死したという悲劇の世代である。しかし彼らは戦後ひたすら働き続け、復興どころか世界から『二十世紀の奇跡』と呼ばれた高度経済成長を成し遂げた年代でもある」と書かれています。戦後おそらく生き延びた同世代の方々は、亡くなった同期の分も懸命に生きることが自分の使命であり、またそれが供養にもなると思って頑張れたのではないでしょうか。

このような歴史があって今日の豊かで平和な日本があることを認識し、それを次世代に伝えていくことが大切だと思います。大正世代のお檀家さんが亡くなられた時には、法話で必ずこのお話をさせて頂きます。悲惨な戦争を体験し、その経験を直接聞くことができる貴重な年代、正に日本の財産ともいえる方々が年々少なくなってしまうことは、非常に寂しい限りです。

民話の小箱（青森県）

雪娘 ●うたかたの夢

むかし、むかし。

北国の村に、子供のいない爺さまと婆さまが住んでおった。

冬のひどい吹雪（ふぶき）の夜のこと、

「ごめんなされ、ごめんなされ」

と外で声がする。

爺さまと婆さまは、こんな夜に、だれだろうと思いながら戸をあけてみた。

すると、このあたりでは見たことのない女が小さな女の子を連れて立っていた。ふたりとも真っ白に雪をかぶっている。

おーおー、かわいそうに。路にでも迷（まよ）ったか」

「さぁさ、つめたかろう。入ってあったまれや」

爺さまと婆さまが思わず口ぐちに言うと、女は消え入るような声でたのんだと。

「お願いです。どうかこの娘（こ）をしばらくの間（あいだ）あずかってくだされ」

「あずかってもよいが、おまえさんはいったいどうなさる？」

爺さまは問い返しながら女の子をだきあげた。

そうしたら、とつぜん、目もあけられんほどビューと吹雪いて、女の姿がかき消えてしまったと。

そんなことがあってから一月（ひとつき）、二月（ふたつき）とすぎたが、娘（むすめ）をむかえにこなかった。そのうち娘も爺さまと婆さまにたいそうなついてしもた。

子供のない二人は、その子を我が子のように大切に大切に育てたんだと。

一口法話

心機一転

毎年毎年、今年こそ今年こそといろんな計画や決意を持って新年を迎えますが、去年を振り返るといつも恥ずかしくなります。一生懸命努力精進なさる方に比べて、自分はなんと怠け者であることかと、情けなくなるのです。

お念仏の生活においても、毎日、何百遍、何千遍、何万遍とお称えするお念仏を一体何遍しているのだろうかと。けれども、たとえ最後臨終の十遍のお念仏でも必ず往生できるというみ教えは、なんと有り難いことでしょう。

たとえば、千年間、扉が閉ざされ真っ暗闇であった部屋を明るく照らすには、千年かかるでしょうか？そんなことはありません。扉を開ければ、一瞬にして部屋の中は明るくなるのです。

それと同じように、私たちの心が、

その娘は、大きくなるにつれ、色の白い美しい娘になっていった。けれども、この娘はどうゆうわけか風呂（ふろ）に入るのが大嫌（だいきらい）であった。いくらすすめても風呂に入ろうとはしない。

あるとき、爺さまと婆さまは、こんな美しい娘は風呂に入れてみがけばもっともっと美しくなるにちがいないと、いやがる娘をむりやり風呂に入れた。

ところが、いつまでたっても娘は風呂からあがってこない。お湯の音もさっぱり聞こえん。

「どうした、あんまり長湯（ながゆ）をするとのぼせるぞ」

爺さまが声をかけたが何の返事もない。

だんだん心配（しんぱい）になって、爺さまと婆さまが風呂の中をのぞいたと。

風呂の中にはだぁれも居なかった。

「おーいおーい」

と娘をよびながら、二人がお湯の中を見ると、そこには、娘がいつも髪（かみ）にさしていた赤いくしが、あぶくといっしょに浮いていたんだと。

どんとはらい。

書への誘い

「鳥・鳥雀聚樹深」

故林　錦洞書

貞林院瑞正寺　住職　林　清方

本年は酉年です。これは金文（中国古代の漢字体）で「鳥」と書かれており、象形文字のようで鳥が枝に立っているように見えます。左側は「鳥雀は樹の深きに聚（あつ）まる」と読み、これは中国の古い諺（ことわざ）です。

鳥や雀は自分の居心地が良さそうな枝や葉の茂った大きな樹木を争うように癒しを求めて飛んでくるが、それに比べ大樹はただ無心無言でひたすらそこにそびえ立っている。つまりこれを人に例えると「徳を積み人としての尊厳を見つめ格調高い品格を備えた人物には、自ずと周りに沢山の人たちが集まってくるが、懐の狭いうすっぺらな人間には誰も寄りつきませんよ」という意味です。

今年は大樹のようにドッシリ構え、大きな心で人と接することができるように心掛けてみませんか。

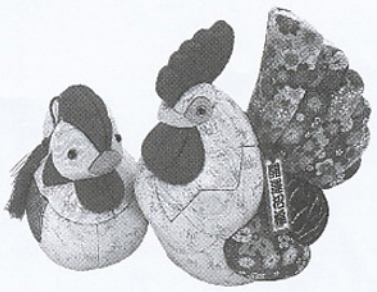
たとえこの命の始まる以前から今までずっと、貪りや怒りや愚かさの煩悩の闇に閉ざされていようと、お念仏をお称えすることによって、阿弥陀様の光明に照らされて、清らかな心にさせていただくことができるのです。

今年から、そして今日からと心を改めてお念仏の生活をさせて頂く。たとえ怠ける日があったとしても、それは凡夫であればこその仕方のない事です。次の日から再び心を改めて、お念仏をお称えしていこうではありませんか。

あらたまの　年の始めに　高らかに
声あらためて　南無阿弥陀仏

総本山知恩院布教師会ホームページより

迎春



謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。

今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

酉年の守り本尊は、不動明王です。私たちの心の迷いや煩悩を取り除き、全ての人々を救おうとされています。

今年一年檀信徒ご一同さまの平安を心より祈念申し上げます。

平成二十九年丁酉　元旦

貞林院瑞正寺

住職林　清方

副住職林　良政

法類総代林　英道

同寺総代世話人一同

平成二十九年 年中行事のお知らせ

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましたらあらためてご案内いたしますので、お誘い合わせの上ご参詣ください。

＊春・秋彼岸会法要につきましては、あらためてご案内をしておりませんが、お中日に塔婆回向をしておりますので、ご希望の方は電話・ファックス、メール等によりお申し込みください。

＊春彼岸会法要　三月二十日（月）

施餓鬼会法要　五月十四日（日）

七月お盆法要　七月十六日（日）

八月お盆法要　八月十三日（日）

＊秋彼岸会法要　九月二三日（土）

旧瑞正寺のご本尊が転座します

東日本大震災から早いもので六年、三月には震災物故者の七回忌を迎えます。宮城県仙台市荒浜にあった浄土宗浄土寺（中澤秀宣住職）は海沿いであったため、本堂・庫裡すべてが津波に流され全壊しました。また近隣の檀家さんも約一四〇人が犠牲となるなど甚大な被害を受けた地区です。

本堂が全壊のため当然、ご本尊も流されたという話は当初より聞いており、何かお役に立てることはないかと考えていました。

貞林院瑞正寺は港区三田にあった旧貞林寺と現在の葛飾旧瑞正寺が昭和五十四年に合併した寺であることから、それぞれの寺のご本尊があります。そのため現在の本堂は二階建てにされ、二階に旧瑞正寺の阿弥陀さまを、一階に旧貞林寺の阿弥陀さまが安置されています。

浄土寺のご本尊となる仏像

いずれ浄土寺の本堂が再建された時には、二階に安置されたままの阿弥陀さまをむしろ浄土寺にお納めして、大勢の檀信徒の方々に参拝して頂いた方がよいのではないかと震災直後より考えていました。そのため早速平成二十三年七月三十日に総代及び責任役員会を開きこの提案を相談したところ、役員一同より快く承諾されました。

中澤住職は早くより寺の再建に動き出されたため、本堂・庫裡が来春には完成することから、昨年十月に無事ご本尊とともに使われていない仏具なども引き取られました。これも有難い仏縁と思われ、宮城の地に当山のご本尊が納まり、新本堂にまたお念仏の声が響きわたる日が今から楽しみです。

（貞林院瑞正寺）

トラックに積まれる仏具など